

『この国はなぜ被害者を守らないのか子ども被災と薬害エイズ』、川田龍平、PHP 研究所、2013 年

『薬害エイズを生きる—帝京大病院血友病患者島田照国の記録』、西野瑠美子、明石書店、1996 年

『血の帝国—日米薬害エイズの舞台裏』、マサミ・コバヤシ・ウィーズナー、彩流社、1996 年

『新ゴーマニズム宣言スペシャル脱正義論』、小林よしのり、幻冬舎、1996 年

『日本のエイズ—薬害の犠牲者たち』、広河隆一、徳間書店、1993 年

『薬害エイズ再考—医師から見た薬害エイズの真実』、加沼戒三、花伝社、1998 年

『砂時計のなかで—薬害エイズ・HIV 訴訟の全記録』、島本慈子、河出書房新社、1997 年

『薬害エイズの真相』、広河隆一、徳間書店、1996 年

『いのちの歌薬害肝炎たたかひの軌跡』、山口美智子、毎日新聞社、2010 年

『ドキュメント検証 C 型肝炎—薬害を放置した国の大罪』、フジテレビ C 型肝炎取材班、小学館、2004 年

『がんばらんと! 薬害に遭って、見えてきたこと』、福田衣里子、朝日出版社、2009 年

『薬害肝炎—誰が C 型肝炎を「国民病」にしたか』、大西文恵、金曜日、2005 年

『薬害 C 型肝炎女たちの闘い—国が屈服した日』、岩澤倫彦・フジテレビ調査報道班、小学館、2008 年

『薬害肝炎とのたかひ—350 万人の願いをかかげて』、薬害肝炎全国原告団出版委員会、桐書房、2009 年

『薬害肝炎裁判史』、薬害肝炎弁護団、日本評論社、2012 年

『薬害ヤコブ病の軌跡〈第 1 巻〉裁判編』、薬害ヤコブ病被害者弁護団全国連絡会議、日本評論社、2004 年

『薬害ヤコブ病の軌跡〈第 2 巻〉被害・運動編』、薬害ヤコブ病被害者弁護団全国連絡会議、日本評論社、2004 年

『薬害ヤコブ病—見過ごされた警告』、井元里士、かもがわ出版、1999 年

『心の叫び—薬害ヤコブ病裁判解決へのみちのり』、薬害ヤコブ病大津訴訟弁護団、かもがわ出版、2003 年

『いのちを返せ!—ドキュメント薬害ヤコブ病とたたかひたつた人びと』、矢吹紀人・薬害ヤコブ病闘いの記録編集委員会、あけび書房、2004 年

『薬害シンドロームを絶て!—くりかえされた悲劇薬害ヤコブ病』、薬害ヤコブ病問題シンポジウム実行委員会、ケイ・アイ・メディア、2000 年

『注射による筋短縮症、注射による筋短縮症全国自主検診医師団学術調査委員会』、三一書房、1996 年

『筋短縮症—つくられた障害児たち』、注射による筋短縮症から子供を守る全国協議会、績文堂出版、1977 年

『山梨筋短縮症裁判の記録』、山梨筋短縮症裁判弁護団、日本評論社、1994 年

『薬害スモン』、亀山忠典、大月書店、1977 年

『薬害を負うて行く』、横山悦子、鶴書院、1997 年

『岩手スモン運動誌失われた時の叫び—薬害スモンとの闘いとその軌跡』、帷子貢、岩手スモンの会、2000 年

『スモン被害—薬害根絶のために』、高野哲夫、三一書房、1979 年

『空前の薬害訴訟—「スモンの教訓」から何を学ぶか』、泉博、丸ノ内出版、1996 年

『スモン・スキャンダル—世界を蝕む製薬会社』、オツレ・ハンソン、朝日新聞社、1978 年

『裁かれる現代医療—スモン・隠れた加害者たち』、高橋暁正・水間典昭、筑摩書房、1981 年

『スモン事件と法』、淡路剛久、有斐閣、1981 年

『スモン訴訟の記録』、スモン訴訟東京弁護団、スモン訴訟東京弁護団、1983 年

『薬害スモン全史全 4 巻』、スモンの会全国連絡協議会、労働旬報社、1981 年

『グラフィック・ドキュメントスモン』、羽賀しげ子・実川悠太・小林茂、日本評論社、1990 年

『神と悪魔の薬サリドマイド』、Rock Brnner, Trent Stephens、日経 BP 社、2001 年

『サリドマイドと医療の軌跡』、栢森良二、西村書店、2013 年

『サリドマイド物語』、栢森良二、医歯薬出版、1997 年

『サリドマイド事件全史』、川俣修壽、緑風出版、2010 年

『不思議の薬—サリドマイドの話』、鳩飼きい子、潮出版社、2001 年

『薬品公害と裁判—サリドマイド事件の記録から』、藤木英雄・木田盈四郎、東京大学出版会、1974 年

『サリドマイド—科学者の証言』、増山元三郎、東京大学出版会、1971年

『イレッサ薬害—判決で真実は明かされたのか』、片平洸彦、桐書房、2013年

『陣痛促進剤あなたははどうする—お産の前に一番大切なことについてきちんと説明を受けていますか?』、陣痛促進剤による被害を考える会、さいろ社、2003年

『病院で産むあなたへ—クスリ漬け出産で泣かないために』、陣痛促進剤による被害を考える会、さいろ社、1995年

『薬害はなぜ隠されたのか—“生け贄”にされた医師の告発』、水沢溪、三一書房、1997年

『タミフル薬害—製薬企業と薬事行政の責任と課題』、片平洸彦、桐書房、2009年

『知っておきたい薬害の教訓—再発防止を願う被害者からの声』、医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団、薬事日報社、2012年

『ノーモア薬害—薬害の歴史に学び』、その根絶を、片平洸彦、桐書房、1997年

『薬害過失と因果関係の法理』、塩野隆史、日本評論社、2013年

『和英対訳日本の薬害事件—薬事規制と社会的要因からの考察』、一般財団法人医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団、薬事日報社、2013年

『厚生省薬害史—行政の歪が見えてくる!厚生省薬事関連訴訟の軌跡』、富塚孝、三一書房、1997年

『チバガイギーの内幕—薬害の構造』オッレ・ハンソン、青木書店、1989年

『ハンセン病・薬害問題プロジェクト作為・不作為へ』、山本務・熱田一信、本の泉社、2007年

『厚生省の「犯罪」—薬害』、毎日新聞薬害エイズ取材班、日本評論社、1997年

『日本の薬害』、高野哲夫、大月書店、1979年

『戦後薬害問題の研究』、高野哲夫、文理閣、1981年

『ドキュメント日本の公害第3巻薬害・食品公害』、川名英之、緑風出版、1989年

『薬害を追う記者たち』、毎日新聞大阪医療取材班、三一書房、1996年

『薬害の社会学—薬と人間のアイロニー』、宝月誠、世界思想社、1986年

『図解薬害・副作用学 (みてわかる薬学)』、川西正祐・小野秀樹、南山堂、2013年

『薬害はなぜなくなるのか—薬の安全のために』、浜六郎、日本評論社、1996年

『ノーモア薬害—薬害の歴史に学び』、その根絶を、片平洸彦、桐書房、1997年

『腐蝕の連鎖薬害と原発にひそむ人脈』、広瀬隆、集英社、1996年

『FDAの知識ジェネリック薬—不安と期待』、石居昭夫、薬事日報社、2012年

『薬害と政治—薬の氾濫への処方箋』、フィリップ・R.リー、紀伊国屋書店、1978年

『薬害—その医学的・薬学的・法学的側面』、曾田長宗・講談社サイエンティフィック、講談社、1981年

『舛添メモ厚労官僚との闘い752日』、舛添要一、小学館、2009年

『厚生労働省戦記—日本政治改革言論』、舛添要一、中央公論新社、2010年

『医療事故・カルテ開示・患者の権利』、石井昭男、明石書店、2001年

『戦後行政の構造とディレンマ—予防接種行政の変遷』、手塚洋輔、藤原書店、2010年

『カルテ改ざんはなぜ起きる—検証:日本と海外』、石川寛俊、日本評論社、2006年

『医療と裁判—弁護士として、同伴者として』、石川寛俊、岩波書店、2004年

『医薬を近代化した研究と戦略』、山下麻衣著、芙蓉書房出版、2000年

『MMRワクチン薬害事件 新3種混合ワクチンの軌跡』MMR訴訟弁護団編著、2007年

『大阪社会労働運動史 第9巻』、大阪社会運動協会、2009年

『医薬品の安全性と法 薬学法学のすすめ』鈴木利廣・水口真寿美・関口正人、エイデル研究所、2015年

薬害教育DVDシリーズ『温故知新—薬害から学ぶ—』、医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団(旧日本公定書協会)、メディアバンガード(2015.2現在8巻刊行、続刊)

文献番号

報告区分 総括

研究年度 平成 26(2014)年度

研究課題名 薬害に関する資料等の調査・管理・活用等に関する研究

課題番号 H25-医薬-指定-003

研究分野名 健康安全確保総合研究

研究事業名 医薬品・医療機器等レギュトリーサイエンス総合研究

研究代表者 金 慶南

